

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年08月05日

計画の名称	大竹駅周辺地区における安全・安心な歩行空間の創出（防災・安全）													
計画の期間	令和06年度～令和07年度（2年間）											重点配分対象の該当	○	
交付対象	大竹市													
計画の目標	JR山陽本線で分断された大竹駅周辺地区において、自由通路及び駅前広場を一体的に整備することにより、駅へのアクセスの改善による利便性向上や、高齢者や障がい者など歩行者に配慮したユニバーサルデザイン化（視覚障害者ブロック等）を行うことで、避難路の確保や安全・安心な歩行空間の創出を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		380	A	380	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（R6当初）		（R7末）
1	ユニバーサルデザイン化された駅前広場や休憩所を整備することにより駅の利便性が向上し、年々減少傾向にある大竹駅の利用者数を維持させる			
	1日当たりの駅利用者数 （1日当たりの駅利用者数5,320人）＝駅利用者数5,320人（R5年度推定値）－（1年当りの減少率1.5％）＋（駅前広場整備後の増加率3.0％）	5320人	人	5320人
2	駅前広場を整備することにより、大竹駅周辺地区バリアフリー基本構想において取り組むべき事業の達成率を向上させる			
	大竹駅周辺地区バリアフリー基本構想の取り組むべき事業の達成率 （取り組むべき事業の達成率）＝（達成された事業数）／（取り組むべき事業数）	52%	%	74%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
		一体的に実施することにより期待される効果																			
		備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	大竹市	直接	大竹市	S街路	改築	駅前油見線	駅前広場整備 A=4,300m2	大竹市	■	■				380		-		
												小計						380			
												合計						380			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

大竹市 建設部 都市計画課

事後評価の実施時期

令和8年8月

公表の方法

大竹市ホームページに掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

JR山陽本線で分断された大竹駅周辺地区において、自由通路及び駅前広場を一体的に整備することにより、駅へのアクセス向上による利便性向上や、歩行者、とりわけ高齢者や障がい者などの通行に配慮したユニバーサルデザイン化（視覚障がい者ブロック等）を行うことで、避難路の確保や安全・安心な歩行空間の創出を図った。
本整備計画の事業実施により、定量的指標の目標値を上回る効果があった。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○特記事項（今後の方針等）

要素事業である駅前油見線については、社会資本総合整備計画「38安全・安心な歩行者・自転車通行空間の確保」で、大竹駅周辺地区と接続する街路を整備することで、通学路の確保を図ることとしている。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	5320人	自由通路と駅前広場の一体的整備による駅の利便性向上に加え、コロナ禍明けによる駅利用者数の増加が見込みを上回ったため。
	最 終 実績値	5730人	
2			
	最 終 目標値	74%	本整備計画の実施により達成された事業のほか、自由通路で連結された東口広場において達成した事業があったため。
	最 終 実績値	79%	